

# サーキュラーエコノミーへの取り組み

## サーキュラーエコノミーと生物多様性・ネイチャーポジティブ、およびレジリエンス向上へのさらなる貢献

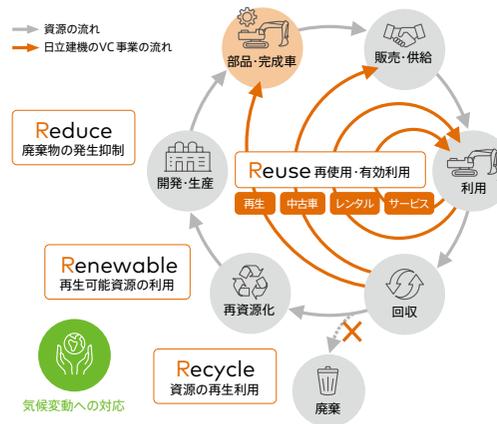
日立建機グループは、ゼロ・エミッションを実現する建設機械の普及に取り組むと同時に、部品・サービス、再生、レンタル、中古車といったバリューチェーン事業を通じて、廃棄量をさまざまな角度から減らす取り組みを行っています。そのために4つのR(Reduce-Reuse・Recycle・Renewable)の活動をグループ全体で推進し、さらに「製品ライフサイクル」を1.5倍にすることをめざしてバリューチェーン事業の拡大を図っており、再生部品のさらなる普及、リサイクル材使用の増加によりサーキュラーエコノミーを事業の一環とし

て実践しています。これらの取り組みにより、廃棄物の削減、投入資源の抑制を実現し、最終的にはCO<sub>2</sub>排出量の削減にも貢献しています。

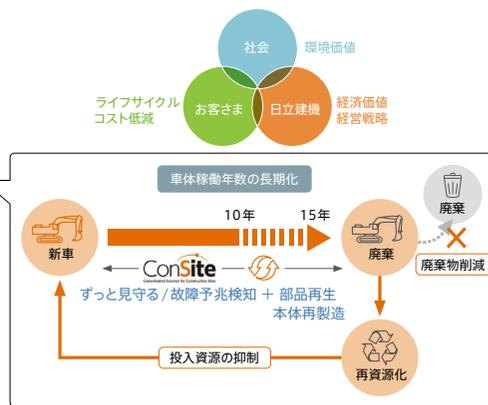
また、農業・林業・畜産業などの発展に貢献する機械・技術の提供を通じて生物多様性・ネイチャーポジティブへ貢献し、防災・減災工事向け機械の高度化を通じてレジリエンスな社会づくりへさらなる貢献を図り、環境価値・社会価値に根ざした企業価値の向上に取り組んでいきます。

### ■ 日立建機グループがめざす資源循環型ビジネスへの転換

4つのRを日立建機グループ全体で取り組む「姿」



日立建機がサーキュラーエコノミーに取り組む意義



### ■サーキュラーエコノミーの推進 KPI

4R区分	項目	内容	2023年度実績	2025年度目標	2030年度目標
Reduce	廃棄物原単位削減率 (2022年度比)	活動量当たりの廃棄物排出量の割合	17%削減	7%削減	20%削減
	再資源化率 (国内)	排出される廃棄物に対する再資源化量の割合	93%	94%	99.5%
Reuse	長期稼働機台数増加率 (2022年度比)	マイニング機械の総稼働台数に対する長期稼働機(6万hr以上)の割合増加率	+13%	+20%	+50%
	部品再生による再利用重量増加率 (2022年度比)	再生事業による原材料削減量の割合	+7%	+40%	+150%
	中古車事業売上収益の拡大 (2022年度比)	売上収益伸び率	△3%	+8%	地域のニーズに合った製品普及
	レンタル事業売上収益の拡大 (2022年度比)	売上収益伸び率	+10%	+30%	
	機械状態管理システム	ConSite普及率	73%	2024年度以降標準装備	ダウンタイム「ゼロ」をめざして